

# 「病院・児童施設で過ごす子どもたちの笑顔の贈り物事業」



長期入院や福祉施設で生活している子どもたちに対し、プロの芸術家による、人形劇や音楽、歌、パントマイム、ワークショップを届け、子どもたちの笑顔による、QOL 向上を図る。病児に付き添う保護者や、ケアする職員も一緒にホッと時間を過ごす。子どもの成長発達にとって、家族や仲間と一緒に楽しく「心をあそぶ」ことは不可欠であり、特に閉ざされた空間で暮らさざるを得ない子どもたちに、癒しや励ましとなり笑顔になるよう、そとからの支援をする。

この事業は、企業の助成金や多くの方々の募金により実現しております。応援してくださった皆さんに感謝いたします。

実施病院名：社会福祉法人チルドレンス・パラダイス 養護施設 子山ホーム  
プログラム名：「アフリカンリズム&パーカッション」

日時：2018年8月30日(木) 15:00~16:00  
場所：1F 集会所  
参加者 56人  
(子ども 39人 病院関係者 17人)  
指導者：ピタシカオフィス(B.B.モフラン  
ダウディ 典子)

## プログラムの内容

3曲歌を披露 コロコロカタコリソー等日本の言葉の発音に似ているが意味が違う言葉を紹介 「ま」と「め」で声を出す 太鼓を叩くワーク バラード ダンス アンコールでソーラン



タイコを見て「前にも見たよ」と話してくれた子がいて人懐っこい面が見られた。タイコの体験を心待ちにしている「やりたい人」の投げかけに「はい」と元気な声で応え、どんどんと前に出てタイコをたたき出す積極的な子もいた。部屋の後ろの方に座っていた中学生くらいの女の子二人は、周りの子どもたちの様子も見ながら、ちょっと控えめに楽しんでいた。自然体で年長者のお兄さん、お姉さんが幼い子たちを抱っこしたり、ダンスの時には肩車をして踊ったりする姿が見られた。



終了後にスタッフの所へ来てくれた女兒が、手を出してきて両手を繋ぎピョンピョンとジャンプして、全身で楽しかった感を表現してくれた。

## 子どもの声

- ・「ぶたにく ぶたにく たべたいな」がすごくおもしろかった。たのしかった。
- ・リズムのたのしさがわかった。たのしかった。
- ・きれいな歌声、とても美しい太鼓の音を聞いて、感動すぎて寝てしまいました。
- ・リーダーが太鼓とピアノも上手でビックリした。ダウディは連打がすごい。ハクナマタタがすごくいい曲だった。

## 病院関係者からの声

- ・こどもたちのためにステキな演奏 ありがとうございました。普段できないことを体験出来、こどもたちは大喜びでした。また、機会がありましたら子山ホームに遊びにきてください。